

視察の経緯

社会福祉法人ながよ光彩会とJR九州、長与町が協働して駅員不在の時間帯(午前7時～正午まで駅員在中)に無人駅となることで生じる駅利用者の「困りごと」を解決するため、障害をお持ちの方(車いすや目の不自由な方等)の乗降介助や駅構内の清掃、改集札業務について業務委託を社会福祉法人ながよ光彩会が担うことで福祉のノウハウを生かしながら駅利用者の困りごとを解決していくことや駅構内にGOOOOOOOD STATION(グッドステーション)を創設して、地域のにぎわいを創出する取組も実施されており、長崎県内では初の試みとすることもありまして、今回魅力的な取組を視察させていただくことになりました。

取組のきっかけ

「みんなのまなびば み館」を訪れた来館者がこぼした一言に「この前、乗ったら逆方向だった。」、駅員が不在の時間帯になると案内用の電光掲示板が消え、どちらのホームから乗車すればよいか分からなくなることや駅員不在の不便さを嘆く「まちのこえ」が徐々に聞こえるようになってきた。最初は他人事で違う世界の話だった駅の困りごとが段々と身近なものとなっていました。



GOOOOOOOD STATIONの取組について貞松理事長から紹介の様子



今回の視察場所

長崎県西彼杵郡長与町のJR長与駅が舞台



GOOOOOOOD STATIONの取組とは

令和5年9月1日に長与駅構内のコミュニティホール内にオープン



コミュニティホール内にあるGOOOOOOOD STATIONの様子



ながよ光彩会は「得意を伸ばして、いかしあう。」を合言葉に、自分の得意なことを活かして働くことができる環境を創ることをコンセプトに活動しています。令和4年11月30日にながよ光彩会がJR九州にぎわいパートナーに認定されたことを受けて、無人駅の困りごとの解決に向けて動き始めました。駅利用者などが福祉に出会いに来てもらえる環境として令和5年9月1日にGOOOOOOOD STATIONを開設しました。

気になっていたGOOOOOOODのO(オ)の数について、貞松理事長に尋ねたところ、この取組に関わっていく方の個性を表しており、共にGOOOOOOODを育てていきたいと語っていました。今後Oの数が増えていくことでたくさんのつながりが生まれ、この取組が拡がっていくことを期待しています。コミュニティホール内は駅利用者が安心して利用できる落ち着いた雰囲気で、ながよ光彩会の職員でありながら焙煎士の資格を持った方が作ったコーヒーは芳醇な香りで美味しいかったです。

社会福祉法人 ながよ光彩会の取組紹介



ユニバーサルアクションプログラムの様子

ユニバーサルアクションプログラムってなんだろう？

令和6年4月から改正障害者差別解消法が施行されます。合理的配慮の提供が義務化になり、全ての企業に合理的配慮が求められます。この法律は、障害を理由とする不当な差別をなくしていくことで、障害のある人もない人も分け隔てられることなく、誰もがお互いの個性と人格を尊重し、支え合う社会を作ることを目指しています。それを受け、ながよ光彩会は、JR長与駅を舞台に**身の回りにある小さなバリアに気づく力を育む研修プログラム**を実施しています。長与駅構内で起こる様々な困りごとを座学と実践を交えながら、身近にある課題に気づき、考えるきっかけを作ることにより、**アクション(行動)**につなげていくことを目的としています。合理的配慮について考えてみましょう。日々の生活の中で周りを見渡してみると身の回りにある小さなバリアに気づくはずです。

みんなのまなびば み館の活動について

「みんなのまなびば み館」は地域のみんなのための**“まちのリビング”**です。赤ちゃんからお年寄りまで誰でも無料で利用することができるコミュニティースペースです。み館のワークショップなどのイベントを通して、何かをしながらだったら**悩みごとや困りごと**がポロっと出てくるのではないかと考えました。み館は、家庭、仕事、学校それ以外にもつながりを作ることで、人生はもっと楽しく豊かになる。家族以外の誰かが自分の存在を認めてくれることが、自信と力になる。そんな想いから、地域の中で**「あたらしいつながりを育む場所**として生まれました。集まるきっかけ、つながるきっかけ作りにワークショップを定期開催されています。み館は、施設に入所する前まで華道の先生をされていた利用者の方が生花きょうしつを開催したり、教員をされていた地域の方が子どもたちに昔遊びを教えたりしています。また、ながよ光彩会の職員が介護職ではなかったら何をしているのか、職員自身ができることに日々チャレンジしており、み館をキャリアデザインやセルフマネジメントなどの活動の場として活用しています。

こんな時にみ館を利用して欲しい

- ◆ 友達を作りたい。
- ◆ 趣味がほしい。
- ◆ 居場所がほしい。
- ◆ 学びたい。
- ◆ 特技を活かしたい。
- ◆ 子育て中で孤独を感じている。
- ◆ 面白いことがしたい。
- ◆ ふと寂しくなる時がある。
- ◆ 宿題を友達と済ませたい。
- ◆ 話を聞いてほしい。

みんなのまなびば み館HP <https://mi-kan.jp/>



今後の展望を教えてください。

地域課題に対して、我々、福祉事業者の得意を掛け合わせていくモデルにおいて重要なことは、持続可能性をプロジェクトデザインすることです。そのためには小学生からSDGsを学び、中学以降は地域課題を探索し課題解決の手法を学ぶ次世代を担う若者や、教育機関との協働、共創が不可欠だと考えています。大人たちが正しさを固定化することなく、業界の垣根を超えて得意を伸ばして、いかしあえる社会。福祉との掛け算で、そんな社会を実現し働き方や生き方の選択肢をもっとゆたかにしていきたいと考えています。

